

第68回

波佐見陶器まつり

2026
4.29水 ~ 5.5火 祝

9:00~17:00 ※初日(4月29日)は混雑が予想されます

本会場
やきもの公園

第二会場
波佐見・有田インター駐車場

抽選会開催
お買い上げ2000円ごとに1枚贈呈

駐車場料金(公設)
一般車 1000円/回
バス 2000円/回

シャトルバス
有田~波佐見(会場)
乗車料金 500円/人・回
※高校生以下は無料

会場周辺マップ
アクセスマップ

波佐見陶器まつり協会公式ホームページ
<https://hasamitokimatsuri.com>

波佐見陶器まつり協会公式Instagram
https://www.instagram.com/hasami_porcelain_fes/

主催 波佐見陶器まつり協会(波佐見焼振興会) TEL:0956-85-2214 協力 長崎県立波佐見高等学校 美術・工芸科

シンプルで記憶に残るデザインを目指しました。色数を抑えることで、「波佐見陶器まつり」のロゴや開催期間に自然と視線が集まるように構成しています。背景にはさまざまな食器の形を配置し、波佐見焼の多様さと魅力を表現しました。

シンプルに、大胆に。

第68回波佐見陶器まつりポスターデザイン

ここに注目!

作者紹介 **新郷 那月さん**
しんごう なつき
波佐見高校 美術・工芸科 3年(大野中学校出身)



暮らしを守る
97億円の使い道

はさみ

No.175 令和8年5月号



議会情報

議会だより

産業建設委員会 行政調査報告： 陶磁器産業の未来を拓く

産業建設委員会では令和8年1月27日から29日にかけて、国内最大級の陶磁器産地である岐阜県多治見市において行政調査を実施しました。

今回の視察の目的は原材料価格の高騰や後継者不足といった波佐見焼業界と共通の課題に対し、先進的な取組みを進める同市の施策を調査し、今後の本町の産業政策及び議会支援の方向性を探るためでした。



窯業界関係者との意見交換会

1 観光・産業の拠点整備と経営戦略



「多治見市モザイクタイルミュージアム」

最初に視察した「多治見市モザイクタイルミュージアム」は、タイル産業の歴史とデザインを伝える拠点です。独創的な建築による集客力だけでなく、指定管理者制度による物販や体験工房の収益が支出を上回るなど、健全な運営体制が確立されています。需要減少という課題に対し、タイルを「装飾材」として再定義し、国内外の建築家へ積極的にPRする姿勢は、産業

と観光を一体化させた地域経済活性化の好事例として大変参考になりました。

2 DX推進による効率的な生産体制

洋食器メーカーの株式会社丸朝製陶所では、IT化と機械化による生産改革を視察しました。同社は自社開発の生産管理システムにより、歩留まりや納期をリアルタイムで管理するDX（デジタルトランスフォーメーション）を推進しています。また、一貫生産体制と機械化を進めることで、熟練技能への依存を減らし、女性パート職員を中心とした働きやすい職場環境を実現しています。分業制を基本とする波佐見焼においても、こうした工程集約や効率化は、次世代の生産モデルとして学ぶべき点が多くありました。

3 持続可能な人材育成と産地間連携

「多治見市陶磁器意匠研究所」は、約70年の歴史を持つ教育機関であり、修了生の約7割が近隣地域で活動し、産地の人材供給を支えています。特筆すべきは財源確保の仕組みで、ふるさと納税の使い道に「担い手育成」を指定し、6年度は2,000万円を超える寄附金を同所の運営支援に充てています。また、周辺の民間施設「THE GROUND MINO」では、古民家を活用したレンタルキッチンや若手作家のショップを展開し、若い世代が地域に関わりたくなる環境を整備しています。議会においても、3市の議員40名による「美濃焼振興議員連盟」を設立し、広域での政策提言や海外商標問題への共同対応など、強い結束力で産地を支えています。



「THE GROUND MINO」内にある
レンタルキッチンスペース



「多治見市陶磁器意匠研究所」 研究生工房

(研修資料)

④市の陶磁器産業への支援体制はどうなっているのか。また、県との連携をどのようにされているのか。

○支援体制

- ・貿易振興対策(ジェットロ岐阜負担金、台北国際建築建材展補助)
- ・技術開発(デザイン協議会負担金、上絵付加工安全対策補助)
- ・陶産地販路拡張対策(美濃焼新作展示会補助、セラミックパレー協議会負担金)
- ・消費地販路拡張対策(テーブルウェアフェスティバル出展補助)
- ・美濃焼タイルの産業振興(建築建材展出展補助)
- ・都市間交流関係(やきもの産地交流連携推進協議会負担金)
- ・たじみ陶器まつり、美濃焼祭開催への補助
- ・多治見市セラミックパレー振興事業(オープンファクトリー整備、シェア工房整備、滞在型作陶施設整備、見本市等出展等、新商品開発)への補助

結びに代えて

今回の調査では、産地全体で機械化や協業による生産効率の向上を模索し、行政・議会がその連携を力強く後押ししている姿が印象的でした。この知見を活かし、本委員会としても波佐見焼産業の持続的な発展に向け、実効性のある政策提言と調査研究を継続してまいります。

所管事務調査 教育委員会

- 1 総合文化会館の整備計画について
- 2 総合運動公園の整備計画について

開催日時・場所

令和8年2月16日（月）午後1時30分 委員会室

委員会所見（まとめ）**1 総合文化会館の整備計画について**

築27年となる総合文化会館は図書館を中心とした大規模な改修工事が計画されています。現在、有識者や管理職による検討委員会を中心に協議がなされています。また町民への図書館の利用状況や期待する役割やサービス等といったアンケート調査も実施されています。

委員会としては、今後も他自治体の施設の調査等も行いながら、公共施設等特別委員会の設置も視野に入れ、協議が必要と考えます。



改修予定の総合文化会館

2 総合運動公園の整備計画について

総合運動公園の整備事業については、「第6次総合計画」にも調査・研究を進めることとしながらも、これまで実施されていません。

現在、関係する部署の協議と他自治体の施設への視察に留まっています。

資材等の高騰による、建設費の上昇、鴻ノ巣グラウンドを中心とした改修が代替え地の選定かといった問題もあることから、早急に検討委員会を立ち上げ、より具体的な調査・研究を進めてもらいたいと考えます。

また、委員会としては、総合文化会館の整備事業と同様、特別委員会の設置も視野に入れ、協議を進める必要があると考えます。

東彼地区保健福祉組合議会レポート

8年度当初予算案 14億6,240万円を可決

定例会が3月24日に開会され、8年度当初予算等4議案を審議し可決されました。

1 予算の総額

8年度当初予算	14億6,240万円
7年度当初予算	14億1,550万円
比較	4,690万円の増額

2 歳入

予算14億6,240万円の約半分を占める町分担金は、人口割7割、平等割3割で算出されます。

その内訳は

東彼杵町	1億8,019万2千円
川棚町	2億5,995万9千円
波佐見町	2億7,284万9千円
合計	7億1,300万円

その他、歳入の主なものは使用料及び手数料1億8,320万円、組合債1億2,120万円等です。

3 歳出

<主なもの>

老人ホーム施設費	2億	52万5千円
福祉保険費	8,190万8千円	
火葬場施設費	3,247万3千円	
し尿処理施設費	2億1,787万9千円	
ごみ処理施設費	4億5,406万5千円	
公債費	4億	745万8千円



養護老人ホーム「ひさご荘」

4 養護老人ホーム「ひさご荘」の譲渡について

入所者減等により、運営が厳しい同施設については譲渡が計画され、社会福祉法人を対象に公募されました。3月末現在2法人の応募があり、審査を経て令和9年4月1日から移管の予定です。

※東彼地区保健福祉組合議会とは

東彼地区保健福祉組合は郡内3町で構成される一部事務組合です。主な役割は、し尿・ごみ処理、養護老人ホーム「ひさご荘」の経営、火葬場の運営、介護・障害支援の審査業務など、福祉・衛生事務の共同運営です。この運営には民意を反映するため福祉組合議会が設置され、各町から4議員が兼任で務めています。

暮らしを守る97億円の使い道

5日間にわたり、令和8年度の予算案（一般会計97億円など計7件）を審議し、原案通り可決しました。皆様の大切な税金が、物価高や少子高齢化といった厳しい現状においてどう活かされるか、真剣に議論を重ねました。

主な議論の柱は、「福祉の充実」「地場産業の活性化」「防災・インフラ整備」の3点です。特に物価高騰への対応は、待ったなしの課題として強く対策を求めました。

町に対しては、限られた財源を「真に支援が必要な方」へ素早く届けるよう要望しています。また、デジタル活用や事務の見直しを徹底し、最小の経費で最大の効果を生む「筋肉質な行政」への転換も強く促しました。

今後も、予算が透明性をもって正しく使われているか、皆さまの信頼に応える公正な運営が行われているかを厳しく注視してまいります。

令和8年度 私たちの**税**の使い方をチェック!!

総務課

Q：防災フェスタとは？

A：消防団員の確保と普及を目的に若い世代や女性向けのイベントを開催予定。

住民福祉課

Q：住民票等のコンビニ交付状況は？

A：マイナンバーカードの更新手続きで多忙な窓口業務の負担軽減につながっている。

企画情報課

Q：※「未来大国づくり応援事業」とは？

A：波佐見焼振興会を中心にファンクラブの設立やインターンシップ等を実施する計画。若手の離職率抑制や新組織によるマッチング・就業後のフォローまでの一貫した支援による定着率向上を目指す。

(※4月、事業の名称が「市町連携ビジョン事業」と変更になりました)

長寿支援課

Q：東彼地区保健福祉組合の負担金（老人ホーム分）、今後の動向は？

A：今後の「ひさご荘」の民営化に伴い負担金はなくなる。

長寿支援課

Q：シルバー人材センター関連増額要因は？

A：旧十八親和銀行跡地（西ノ原）への移転を計画している。

商工観光課

Q：路線バス「佐世保嬉野線」の今後は？

A：路線の利用促進と経費減を目指し町内に折り返し場所を計画する。

商工観光課

Q：生地生産環境改善対策事業とは？

A：組合で取りまとめを行い購入するパワースーツへの補助を計画している。

水道課

Q：水道料金改定の検討開始理由は？

A：水道事業の経営維持と、安全安心な水供給の確保のため、老朽管の更新や施設の耐震化事業の推進に伴う財政負担に対応するため。

建設課

Q：西ノ原の土地区画整理事業の今後は？

A：事業規模縮小の方向で見直しを行っている。令和13年度完工を目指している。

農林課

Q：森林整備事業補助金とは？

A：危険木を伐採する場合に、事業費の70%、限度額50万円を補助。申請は自治会単位。

農林課

Q：地域内循環農業推進事業とは？

A：廃石膏由来の肥料「波佐見のめぐみ」で栽培した野菜を、町内の飲食店や卸業者と連携し販売する仕組みを構築する。

令和8年度
私たちの**税**の使い方をチェック!!

教育委員会

Q：水泳授業の民間施設利用とは？

A：老朽化した中学校のプールは改修ではなく民間施設利用とするもの。有田町の事業者に委託予定。

教育委員会

Q：「新編波佐見町史」とは？

A：学術研究の進展から、新たな事実や写真・図・表を用い、上・中・下巻と窯業編の4巻を令和8年度中に発刊する予定。

令和8年度 一般会計予算案に対する討論

反対討論

三石 孝 議員

当初予算は、97億円であるが、町長が志向するメリハリのある予算には、程遠いものである。まず、委託料や補助金の検証や事業評価が不十分であり、前年度予算のそのまま計上が多数散見される。

また、令和9年に値上げが予定されている陶土の安定供給に繋がる関連予算も計上されていない。中でも、生地生産環境整備補助金は、生地組合員以外の生地業者に補助は行われず、組合員数約36事業所に対し、組合以外は約50事業所。どちらも地場産業を支えているにもかかわらず、公的補助の除外は不適切。直ちに修正すべきである。

賛成討論

脇坂 正孝 議員

8年度一般会計予算案は、歳入歳出とも97億円、前年度比7億円、6.7%の減である。この中で歳入は一般財源が3.2%増。地方債は48.2%減となっていて、健全化が見られる。

歳出は基本構想を踏まえた事業を形成した内容である。また、物件費が11.7%減、補助費等は9.7%減で精査の結果が見られ、この予算案に賛成する。

賛成討論

城後 光 議員

町民生活を停滞させないために予算案については賛成するが、多くの構造的課題に対して、執行部における対応方針が明確ではないため、苦渋の決断であることを示したい。

波佐見焼産業界の支援など、抜本的な対策がスピード感をもって取り組まれる必要がある。今後、執行過程において十分考慮いただきたい。

3月
定例会

9人が登壇 一般質問

一般質問の議員別動画は、
こちらから。3月定例会の
動画リストが表示されます。



質問項目

- 町の施設の管理・運営
- 職員不祥事への取り組み

職員の不祥事が多すぎる

町長 倫理規定により対応している

岡村 達馬 議員



「小さなアリの穴から頑丈な堤が壊れる」ということわざがある。町の使用料や賃借料がある施設で今後収益が見込めるものもあれば、そうでないものも見受けられる。

議員 使用料や賃借料を伴う施設はいくつあるか。また、それぞれの施設の稼働率はどうか。

町長 文化会館をはじめ12施設、キャンプ場が2施設、民家宿泊施設が1施設の15施設ある。収益性については設置目的や社会的使命が異なるため、民間経営的な仕様での評価は難しい。稼働率が低くても必要不可欠と判断されるものについては維持継続していく。

議員 キョトテラス（鬼木郷）の整備費用は。また、宿泊等の利用状況はどうか。

町長 整備費用についてはこれまで5,231万円。宿泊者数は7年度1月末までで155人。使用料は102万円となっている。



宿泊施設「キョトテラス」

町職員の不祥事が続く。この15年余りの間に警察事案となったものだけでも6件に上る。

議員 懲戒免職が4件、依願退職が2件で、一つの自治体における発生件数としてはあまりにも多すぎる。

町長 まず、町民皆様に深くお詫びする。有罪や起訴猶予になったものなど形態はさまざまであるが、状況を調査・把握の上、厳正な処分を行った。

職員の不祥事事案				
発生年	事案	懲戒	経歴	経過
2011年(平成23年)	未成年交遊	懲戒免職		
2013年(平成25年)	市民ハラスメント	依願退職	管理職経験者	2年後
2017年(平成29年)	入札妨害	懲戒免職		4年後
2020年(令和3年)	入札妨害	懲戒免職		3年後
2022年(令和4年)	ストーカー・盗撮	懲戒免職		2年後
2026年(令和8年)	業務妨害	依願退職	管理職経験者	4年後

職員不祥事の発生状況

議員 事案を重ねながら職員執行部には過去の教訓への自覚や、真剣に取り組む姿勢が感じられない。教育や指導はどうしているのか。

町長 これまでに「波佐見町職員倫理条例」やコンプライアンスガイドラインに基づき毎月ミーティング等を開催している。

議員 倫理条例や施行規則などは作成されている。しかし不祥事が後を絶たない背景をどうとらえ、認識しているのか。

町長 「町職員懲戒処分等基準要綱」の見直しや、風通しの良い職場づくりを行い、コンプライアンスの浸透を図りたい。



15年間に6件の不祥事は、
ほぼ2年半に1件の発生割合。
全国の同規模自治体でも見ることはない。なぜ波佐見町なのかを研究してほしい。





鳥獣被害防止策は万全か

町長 国の補助事業で対策を講じている

田添 有喜 議員

質問項目

- 農業振興
- 教育行政

農業振興については、国・県の補助事業等を活用して様々な支援が行われている。地域計画が法定化され、各地で話し合いが行われ今後の取組みが示されている。

議員 有害鳥獣被害防止対策の現状は。

町長 防護柵の設置や猟友会による捕獲、すみ分け対策に取り組んでいる。令和8年度は、防護柵の新設が2地区、更新が5地区である。

議員 鳥獣被害防止対策補助金は、集落単位(3名以上)となっているが個人営農者への対応は。

町長 個人にはこの制度は適用できない。

議員 防護柵の更新を待てず、個人的に対応されている状況を把握しているのか。



更新を待てない防護柵(補強箇所)

町長 個人で対応されているところがあることは認識している。

議員 地域計画では、対象地区のすべてが鳥獣被害対策の必要性をあげられている。鳥獣被害の実態把握をどのように行っているのか。

町長 農業共済組合で挙げられている被害状況は把握している。

議員 鳥獣被害防止対策に取り組むためには、本町の被害状況を正確に把握すべきではないか。

町長 実態把握については、今後検討したい。

議員 国の制度とは別に町づくりの一環として町独自の施策として、更新前の対応や個人農家への支援対策を講じてはどうか。

町長 現在は、国の制度により対応していく。更新前の対応や個人農家への対応は各地区で対応してほしい。

議員 農業従事者の高齢化や後継者不足に対して、今後どのような施策を進めるのか。

町長 高齢化に対しては、農林業経営支援事業による農家負担軽減や事故防止、熱中症対策に取り組む。後継者不足は、農業所得の向上を図り、米価に左右されない施設園芸作物の推進を図っていく。

議員 農林業経営支援事業を見直して、多くの農家が支援を受けられるようにはできないか。特に下限事業費20万円の見直しは。

町長 検討する考えはない。

議員 耕作放棄地の活用に対しては、農道等の整備を行い新たな作物の栽培を町づくりの一環として取り組めないか。

町長 鳥獣被害が少ない作物を栽培し収益増を図りたい。

本町における教育支援は、他町と比較しても多額の予算を投じられている。しかし、費用対効果を考えた場合、課題は多い。

議員 各学校においては、本町の大きな課題である児童生徒の学力向上に取り組まれている。しかし、なかなか結果として表れていない。今こそ、教育委員会のリーダーシップが求められていると思うが。

教育長 今後も各学校の取組みを支援していく。

議員 児童生徒の地域での見守り体制は充実している。月1度あいさつ運動時の一斉放送は継続し、教育長が勤務時間前に町内を巡回されている取組みはやめてはどうか。

教育長 今後も取り組んでいく。

議員 多くの市町でスクールバスの運行見直しが行われている。将来の町づくりを見通して、誰でも利用できるコミュニティバスを現在運行しているスクールバス区間で試行できないか。

町長 アイデアは良いが現段階では難しい。学校再編の折に検討したい。



町の発展に大きく貢献してきた窯業や農業の振興に、国・県の支援策だけを活用するのではなく、町独自の施策を講じ、地場産業や事業者等をしっかりと支えていく必要がある。



質問項目

- 農業振興
- 子育て支援

新しい碾茶工場建設への支援は

町長 応分の負担は考えている



岡村真由美 議員

本町における基幹産業の1つ農業の主要作物はコメであるが、かつて名物と歌われた梨や茶の栽培状況と展望についても考えてみたい。

議員 「農業振興計画」は立てているか。

町長 その名称の計画はない。(※後日訂正あり)

議員 梨農家が減少した要因をどう捉えているか。

町長 耕作地が山の斜面にあり、高齢化と共に大変な作業になっていった。品種の更新がうまくいかなかったのも要因ではないかと考える。

議員 茶農家が減少した要因をどう捉えているか。

町長 かつては生葉を出荷していた農家が大半だったが、加工費が高騰し、加工場を持たない農家はやめていったと考える。

議員 抹茶の人気が高まっている。本町でもお茶が収益性のある作物となる可能性はないか。

町長 東彼杵町と比べると規模が小さく、加工して小売りをしないと儲からない。個人での機械の導入は難しく、法人を頼っている現状である。

議員 東彼杵町に新しくできる抹茶用の碾茶工場に本町からも参入する農家があると聞く。何らかの支援を考えているか。

町長 建設費に関して応分の負担をすることになる。



2019年に完成した碾茶工場「フォーティーズ」(東彼杵町)

こども家庭センター「よりそっと」が開所して1年が経過した。ここでは子育て関係の業務を行う他に、勤労福祉会館にあった子育て支援センター「きしゃぼっぽ」の活動拠点としてもフルに活用されている。更に学童の待機児童の緊急的受入れも行っている。

また新年度は新規事業も始まり、ますます手狭になっていくと予想される。

議員 新しく始まる※「こども誰でも通園制度」を町直営、つまり「よりそっと」で行うようにした経緯は。

町長 町内の事業所に受け入れる余裕がなかった。

議員 検診などの行事と「きしゃぼっぽ」の事業が重なった時の活動場所はどうなっているか。

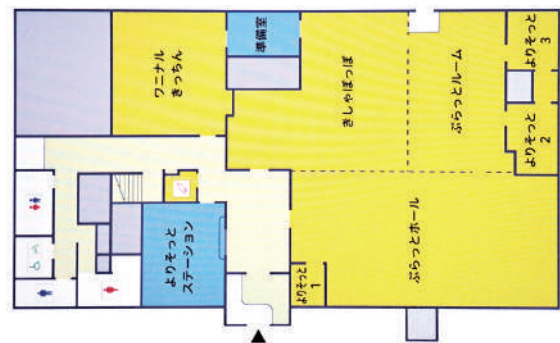
町長 2階の女子更衣室を使わせてもらっている。

議員 現在、受け入れている学童の人数は。

町長 中央小1年生の8人、南小1年生の9人。

議員 新年度は、更に何人増える予定か。

町長 今のところ中央小4人、南小10人。合計31人になる予定だが、追加の申込みがあるかもしれない。



学童も利用している「よりそっと」1階の見取り図

議員 南小学校区に設置が予定されている放課後児童クラブの開設はいつになるか。

町長 令和9年4月の利用開始を予定している。

議員 場所についてはどうか。

町長 学校から移動距離が短い所を検討している。

※訂正

農業委員会の業務としている「農業振興計画の樹立」とは、「農業振興地域整備計画の変更業務を行う」という意味で記載しているものである。

※「こども誰でも通園制度」

保護者の就労要件を問わず、月10時間の中で、未就園児を柔軟に預けられる新しい制度。こどもに集団の中での成長の機会を与え、保護者の育児負担を軽減し孤立化を防ぐことを目的としている。



波佐見町が誕生して程ない頃にできた「波佐見音頭」に名物と歌われたお茶と梨。

美味しいお茶や梨づくりに挑戦する新規就農者はおられないのでしょうか。





窯業界の課題解決に向けては

町長 業界と協議を進める

福田 勝也 議員

質問項目

- 地域公共交通
- 窯業の支援策

高齢者や生徒などの交通弱者にとって、地域公共交通はなくてはならない移動手段であり、その整備や確保、利便性の向上が求められる。また、人命を預かる業務であることから、安全な運行体制の構築と危機管理の徹底が強く求められる。

議員 「かわたな・はさみタウンバス」「のんなっせ号」の運行に対し、利用者や町民からの評価は。

町長 好意的な意見がある一方、改善を望む意見もあり、課題解決に向けて検討していく。

議員 委託事業者における安全・運行管理はどのように把握し、指導しているのか。

町長 月1回の定期的な会議を持ち、運行上の課題や利用者からの意見等について情報共有と課題解決に対する検討・協議をしている。

本町の基幹産業である窯業の発展は、雇用の創出や観光振興、さらには「ふるさとづくり応援寄附金」による財源確保など、行政サービスの向上に大きく影響を与えている。

しかし、その経営環境は、生地業をはじめとする後継者問題や担い手不足に加え、燃料費や人件費、原材料費の高騰など様々な問題や課題が山積している。

議員 これまで窯業界の課題や要望等に対し、町としてどのような対策や支援を行ったか。また、その効果は。

町長 各団体とも意見交換を行い、県と共に陶土代や燃料費などの支援や、波佐見焼のPRや新商品開発等、中長期を見据えた支援を行ってきた。ただし、産地としての課題は根深く、支援の効果がどの程度業界に影響を及ぼすかは、今後、業界の取組みと併せ総合的に判断する必要があると思う。

議員 これまでの「ふるさとづくり応援寄附金」の累計金額は。また、そのうち返礼品に陶磁器を申し込まれた寄附金の累計金額は。

町長 表のとおり。

ふるさとづくり応援寄附金の状況

(平成20年度から令和6年度まで)

寄附額累計	122億8,000万円
返礼品累計	35億8,000万円
うち窯業関係	30億円
返礼品に占める窯業製品の割合	84%
基金積立累計	60億4,000万円
基金取崩額	37億円
うち窯業関係充当額	1億4,000万円
令和6年度末基金残高	23億4,000万円

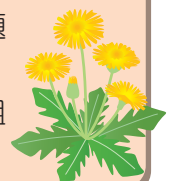
議員 窯業界を取り巻く経営環境の問題点や課題点について、今後どのような対策を考えているか。

町長 天草陶石の安定供給体制の確保については、長崎県と佐賀県で課題共有に向けた協議を行う場を設けたいと考えている。

また、後継者や窯業人材の確保については、これまで行ってきたインターンシップ事業の検証を行うとともに、業界が行う新たな人材確保の取組みについて支援を行いたいと考えている。



窯業の経営を取り巻く環境は、様々な問題や課題が山積している。業界の抱える問題解決・体制整備に向けた協議を、8年度の最重要課題として取り組んでほしい。



質問項目

- 前川町政1期3年半の総括と町民福祉の向上

取り組む事業の選択と集中を

町長 規律ある財政運営を徹底する

城後 光 議員



波佐見焼産業に対する課題は、物価高騰による各生産資材高騰、ふるさと納税額の減少、賃金上昇に伴う担い手減少など、容易に解決できないものが多い。

議員 窯業に関わる事業者の推移はどうか。

町長 製造業の統計によれば平成24年339事業所であったものが令和3年には256事業所となっている。また、商業組合員は、令和元年26社であったものが23社と減少している。

議員 現状の課題にはどのようなものがあるか。

町長 生地事業者の後継者不足による廃業を起因とする分業制の崩壊など、さまざまな懸念材料が出ている。

議員 どう対応していく考えか。

町長 業界団体はもとより近隣自治体などとも連携しながら、課題解決に向けた研究検討を進めていく。



陶芸の館に新設された波佐見焼生産工程案内

少子高齢化が進み、子どもの数や働く人の数は減少する一方で、高齢者が増え医療、介護等に関わる社会保障費用は増えている。

議員 町の支出に占める扶助費（社会的弱者に対する支出）の推移は。

町長 令和4年度予算で17億円から令和8年度には22億円に増加している。

議員 歳出全体に占める義務的経費（法律や条例で支出が義務付けられており原則削減できない経費）の割合は。

町長 令和4年度予算で28.5%であったが、令和8年度予算では40.7%まで上昇している。

議員 これらの現状を踏まえ、今後の財政運営方針は。

町長 一般財源の中で、適切な取捨選択を行い、次世代に負担を先送りしない規律ある財政運営を徹底していく。

現在町内に22ある自治会の加入率は年々低下しており、役員の成り手不足も顕著である。

議員 持続可能な自治会運営に対する支援の考えは。

町長 自治会に対する支援制度見直しや技術的な課題がある際には、自治会と議論を深め、積極的に関わりを持っていきたいと考えている。

波佐見町 行政区別人口一覧（令和8年3月31日時点）

地区名	人口合計	地区名	人口合計	地区名	人口合計	地区名	人口合計
中尾郷	289	井石郷	564	皿山郷	362	甲長野郷	176
三股郷	95	鬼木郷	199	稗木場郷	749	乙長野郷	450
永尾郷	472	金屋郷	389	田ノ頭郷	561	協和郷	558
小樽郷	356	折敷瀬郷	2,209	川内郷	298	志折郷	363
野々川郷	193	宿郷	2,552	岳辺田郷	663	平野郷	114
湯無田郷	1,457	村木郷	850	合計：13,919人			

出典：波佐見町ホームページ



議員に対して「職員を褒めてください」と繰り返す町長だが、果たして管理職は十分に部下を鼓舞できているのだろうか？





商品券の支援は全町民に届くのか

町長 給付金等と合わせ負担軽減を図る

澤田 昭則 議員

質問項目

- 持続可能な観光まちづくり
- 物価高対策プレミアム商品券事業

波佐見焼の文化継承や次世代の担い手育成に直結する持続可能な観光まちづくりが不可欠である。産業・交流・観光の相乗効果を生む「クラフトツーリズム」を推進し交流型観光の実現するためには、観光施策と地場産業との更なる強固な連携、および観光基盤の整備を早急に進める必要がある。

議員 「観光客125万人」という目標達成に向け多角的なアプローチによる持続可能な観光スタイルの確立は。

町長 観光客数を増やす取組みには観光需要に即した体験メニューやツアー造成が必要である。今年度も漫画「青の花 器の森」を活用した新ツーリズムとして中尾山桜陶祭でのスタンプラリーの開催や台湾・香港をターゲットとしたインバウンド事業などを展開し、地域の魅力発信を強化する。

議員 「やきもの公園」周辺を広域的な一体エリアとして捉え利便性向上と滞在・交流を促すイベント展開を軸とした観光拠点としての整備は。

町長 やきもの公園への観光客は、陶芸の館に年間15万人が来館されており、西の原地区や歴史文化交流館、中尾・鬼木地区への周遊も行われている。このことから本町の観光周遊の起点となり観光面にも配慮したインフラ整備や公共交通の充実も必要である。また、観光客のニーズに合致するイベントの開催等も検討する。



観光拠点のやきもの公園

議員 地域産業の活性化に向け「地域一体型オープンファクトリー」（工場や生産現場の一般公開・見学）の開催についての支援は。

町長 観光インフラとして「オープンファクトリー」の必要性を感じており、インバウンド対策においても観光客のニーズとして必須である。環境整備に関する補助事業も制度化している。

予定されている物価高対策のプレミアム商品券（販売型）は経済波及効果が期待される一方、購入にまとまった現金が必要なため、生活困窮世帯や買い控え層にはハードルが高いとの指摘がある。



令和7年度プレミアム商品券

議員 未購入者が生じることで支援の不公平感や効果の偏りが出る懸念がある。すべての町民が等しく支援を実感でき、生活実態に寄り添ったきめ細やかな仕組みづくりについて町の考えは。

町長 今回のプレミアム商品券発行は、単なる一時的な生活支援に留まらず、町の経済を活性化させ持続可能なまちづくりに繋げることが目的である。生活困窮者にとって商品券の購入が負担となる可能性は理解しているが、検討の結果プレミアム商品券の優位性が上回ると判断した。生活困窮者への支援は、国による給付金や各種社会保障制度などで手厚く実施されている。プレミアム商品券は、“全世帯が対象の「生活者支援」であり、同時に町内事業者を潤す「事業者支援」”でもある。



全町民に商品券事業の支援や国による手厚い生活困窮者支援など施策成果の実感が皆様に届いているのか。今後も現場や町民皆様の声を大切に町政の歩みを見守りたい。



質問項目

- 農業用施設の管理
- 南小学校区の放課後児童クラブ
- 波佐見町総合文化会館の大規模改修

片淵堰の土砂除去等整備を早急に

町長 年度内に県と協議する

脇坂 正孝 議員



岳辺田の圃場に農業用水を供給する川棚川の片淵堰は、土砂等の堆積により水深が浅くなり取水量が減少し水田耕作に支障を来しているほか貯水槽には亀裂が生じ、崩壊が危惧されている。

議員 安定した農業用水の供給のためには、しゅんせつや貯水槽の早期修繕が必要と思うがどう対応するのか。

町長 土砂の除去やしゅんせつ作業は必要と考えている。地元水利組合等でしゅんせつ等を実施されているが、すぐに上流からの土砂等で土砂が堆積し、十分な効果が得られず、費用的にも厳しい状況があることから、県担当部署とも協議を行うよう調整している。また、貯水槽についても修繕に向けた相談を県等と進めている。

議員 同地の河川では、土砂の堆積が進み、水面が非常に狭くなっている。原因をどう思うか。

町長 地形的なものと思うが、河川がカーブした位置になっていて、内側に土砂がたまっている。

議員 貯水槽亀裂の修繕費見積額はどの位か。

町長 諸経費を含め、約1,000万円超である。

議員 貯水槽の修繕について、県との相談はどうか。

町長 ポンプの更新と合わせて相談している。

議員 耕作者が安心して農業ができるよう、県へ強く要望してほしいが、計画はどうか。

町長 河川については、防災対策上の安全性の視点と有効に農業活用することで、様々な課題があるが、各々を所管する県北、県央の両振興局と意見交換を計画している。



片淵堰：岳辺田の圃場に供給する用水の源

総合文化会館の大規模改修では、開かれた学びと憩いの拠点としての再整備を図ると施政方針で示された。

議員 大規模改修の対象となる範囲、箇所、面積はどの位か。

教育長 同館は建設から約27年経過し、老朽化が顕著に進んでいる。今回の大規模改修は単なる修繕にとどまらず、開かれた学びの場と憩いの拠点としての再生を目指す。現在、有識者部会及び内部検討委員会で協議を重ねている段階で、詳細な数値を公表できる段階ではない。

議員 部会の開催状況及び最終結論はいつ頃か。

教育長 有識者部会は12月と1月に開催した。8年度にも月1回程度のペースで開催し、基本計画の段階では5月、6月を目途に一旦区切りたい。

議員 図書館の整備については、面積と蔵書数はどの程度を計画しているのか。

教育長 現段階で6～7案あるが、その中では面積はかなり広くなる構想である。

議員 総合文化会館等の休館日が多く、利用が制限されている。見直しが必要である。

教育長 盆の期間の休館や土日の休館については、早期に見直したい。また、図書館も開館時間の延長など柔軟に見直していく方針である。

総合文化会館等施設の休館日・開館時間

施設の名称	休 館 日		開館時間
波佐見町総合文化会館	大ホール	土曜日、日曜日、国民の祝日	12月28日から翌年1月3日
	その他	日曜日、国民の祝日	8月13日から8月16日まで
波佐見町図書館	(1) 月曜日 (2) 国民の祝日（こどもの日及び文化の日を除く。） (3) 年末年始（12月28日から翌年1月3日まで） (4) 特別整理期間（土曜日及び日曜日を除く日で別に定める日）		10：00～22：00

※上記の外、各施設とも町長、教育長等が必要と認めるときは、これを変更し、又は臨時に休館することができる。

議員 利用効果を高めるためには、職員の配置が必要であると思うがどうか。

教育長 しかるべき時期に、専門職員の配置や適切な人員確保を視野に入れ、組織体制の整備について慎重に検討したい。

つぶやき

岳辺田の圃場は約60haと広い面積を有し、約30人が耕作されている。夏場はコメ栽培が主で、水がないと耕作できない。安心して耕作ができるよう、用水確保は重要である。





国の重要文化的景観は

町長 2月17日に官報告示(選定)

北村 清美 議員

質問項目

- 「波佐見中尾皿山と鬼木棚田の文化的景観」
- 「一人暮らし」世帯
- 職員の働き方

「波佐見中尾皿山と鬼木棚田の文化的景観」が本年2月17日に国の重要文化的景観に選定され、官報に告示された。

中尾郷は、登り窯やレンガ煙突、窯元住宅など、近世以降の窯業と住まいの変遷を色濃く伝える窯業集落である。一方、隣接する鬼木郷は、伝統的な水利システムと石積みによる棚田を受け継いできた農業集落である。両地区は労働力や下肥(しもこえ)、梱包用の藁(わら)などを互恵的に融通しあいながら発展を遂げてきた。このような密接な関係を持つ集落は全国的にも稀であり、文化的景観として重要な価値を有している。



白岳山から見た中尾郷と鬼木郷

議員 現状の課題と50・100年後を見据えたプラットフォーム(課題解決の場)はどう考えているか。

教育長 課題は人口推移をみると一目瞭然である。15年前と現在では、中尾郷は434人から289人、鬼木郷は266人から201人に、中尾郷33%減、鬼木郷24%減となった。だからこそ、国・県・町・地元で人口減少や後継者不足を共有して、解決策を共に導き、プラットフォームを構築し、また仕組みを模索しながら、歴史的な景観を守り抜くことと、時代の変化に合わせた利活用を両立させることで、本町ならではの持続可能な地域運営すなわち波佐見モデルの指針を提示し、着実に推進する。

全国的に人口減少が進むなか、その要因の一つに「単身世帯増加」がある。国・県・本町においても子どもや高齢者政策に追われ、単身世帯への対策が十分といえない現状がある。将来的に「夫婦で波佐見に住みたい。夫婦で働きたい。夫婦で子育てしたい。」世帯を増やすことが急務と考え

る。この人たちが高齢者になると様々な課題が発生することが予想され、社会の仕組みが変わり、住民サービスの維持すら困難な衰退の一途をたどる恐れがある。

議員 本町の実態と国県はもとより、「現役世代(65歳未満)のおひとり様対策」はどのように考えているか。

町長 令和8年1月現在689人で、最も多い世代は50代の209人。本町の対策と支援は国や県の制度で充足されるものが多く、単身者に特化した町独自の対策や支援の創設までは至っていないのが実情である。本町ではおひとり様に限らず、現役世代に分け隔てなく様々な施策を展開することで、将来の波佐見町の担い手となっていただきたい。



煙突が見える中尾皿山



鬼木棚田の原風景



懇切丁寧な答弁(約20分)で真にありがたいが、その分中途半端で終わった感がする。ちょいと残念。



質問項目

- 窯業支援
- 波佐見町公共施設等総合管理計画

波佐見版「意匠研」の設立を

町長 提言を参考に研究したい

三石 孝 議員



昨年8月、陶土代が25%値上げされた。本町と長崎県は、増額分を17ヶ月支援することになった。しかし、従来からの業界の課題は未解決のままである。そこで、課題の解決のための支援の在り方を問う。

議員 業界への従来の支援はどうなっているか。

町長 物価高騰対策をはじめ波佐見焼のPRや販路拡大、後継者育成の支援を行っている。

議員 生地組合についての支援はどうか。

町長 作業所への支援として、令和6年度にスポットクーラー購入、令和7年度は蛍光灯のLED化の補助を行っている。

議員 生地組合加入者が、36事業所と少なくなっている。生地生産の不安定化が予想される中、生地組合の存在価値が大きくなってきている。支援の在り方を考える必要はないか。

町長 生地組合への支援は、組合からの要望もあり、作業所の環境整備支援などの間接支援は行ったが、直接支援は行っていない。どのような支援の在り方が、抜本的な解決につながるか頭を悩ませている。

議員 一例を挙げると、現在実施中の陶土値上げに対する補助事業の申請事務を委託事業とするとか、また廃石膏の排出手続きの事務委託を行う等方法はいろいろあると思う。組合自体が活性化する取組みに繋がれば良いのではないか。

町長 委託も含めて、行政が一定の伴走支援を行い一緒になって盛り上げて行く仕組みづくりが必要と考える。廃石膏の処分に関しても同様に検討したい。

議員 人材育成支援はオープン波佐見や生地業者の後継者育成など取り組んできたが、定着率が悪い。事業の検証は行ったのか。

町長 波佐見焼振興会を中心に検証された結果は、①職場以外の相談場所がない②移住者支援不足③受け入れ企業のコンプライアンス④労働環境⑤就業規則等の未熟な点、などが定着につながっていないという分析である。

議員 後継者育成に関しては、多治見市に「意匠研究所」という陶芸に関する養成所がある。そこは、基礎から応用まで、座学や実践で研修する施設であり、年間20名の卒業生のうち7・8割が地元窯業界に就職している。関心はないか。

町長 やる気がある人が、しっかり基礎から学び、終了した時点で町内で働くことについては、

定着率の向上につながると思う。そのために、行政や業界が手厚く支援をしていると思う。



「多治見市陶磁器意匠研究所」

議員 多治見市は、「意匠研究所」に、年間のふるさとづくり応援寄附金総額約4億7800万円(2024年度)に対し、2400万円を投入している。

多治見市では、人は財産であると認識し、ホームページ上では、人材ではなく「人財」と表記してある。

波佐見町のふるさとづくり応援寄附金は減少してきたとはいえ、その一部を業界支援できるような基金を作ってはどうか。

町長 現在あるふるさとづくり応援寄附金の活用は可能である。あらたに基金を作ったほうが、事務執行上やりやすいのであれば、検討していきたい。

議員 町長は、窯業界の人材不足解消のため、インドネシアを訪問された。行政が地場産業存続にさらに乗り出すことは、誠に喜ばしい。今回提案した、窯業支援の在り方についても一考の余地はあると考える。波佐見版「意匠研究所」の設立に向けて視察等前向きに研究に着手してはどうか。

町長 産業の規模感が、多治見市とは異なる。また、行政だけでは効果的な支援策が打てないので、業界や議会からのアイデアが必要と考える。ふるさと納税という観点から考えると、定価で販売し送料も町が負担していることだけでも、業界支援になっていると捉えている。頂いた提案を参考にしながら研究してみたい。



ふるさと納税の返礼品が、定価で販売され、送料を町が負担することが、業界支援になっていることは百も承知である。議論は、業界の後継者不足や人材不足の話である。問題をすり替える答弁には、窯業支援の本気度が窺えず、喫緊の課題認識の欠如に他ならない。



本議会で審議された案件

議案
24件

議案等別審議
結果はこちら



提出された下記案件は、全会一致で可決および承認されました。

審議の結果

3月定例会	当初予算	<ul style="list-style-type: none"> ■R8 特別会計（国民健康保険、後期高齢者医療、介護保険） ■R8 公営企業会計（上水道、下水道、工業用水道） 	可決
	補正予算	<ul style="list-style-type: none"> ■R7 一般会計（第7号） ■R7 特別会計 国保（第3号）、後期高齢（第2号）、介護（第3号） ■R7 公営企業会計 上水（第3号）、下水（第3号）、工水（第1号） 	可決
		<ul style="list-style-type: none"> ■※専決処分の承認（R7 一般会計（第6号））（衆議院選挙事務費） 	承認
	条例	<ul style="list-style-type: none"> ■行政手続条例の一部改正 ■印鑑条例の一部改正 ■個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の一部改正 ■国保条例の一部改正 ■介護保険条例の一部改正 ■使用料及び手数料条例の一部改正 ■RVパークの設置及び管理に関する条例の一部改正 ■空家等対策の推進に関する条例の一部改正 	可決
	契約	<ul style="list-style-type: none"> ■林道虚空蔵線他1地区災害復旧工事請負契約の変更 	可決

※専決処分…緊急時、議事を待たずに町長が判断すること。

賛否表

（賛否の分かれた案件のみ）

○賛成 ●反対

議席No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	審議の結果	
議員名	前田博司	脇坂正孝	澤田昭則	横山聖代	岡村真由美	岡村達馬	三石孝	城後光	福田勝也	田添有喜	北村清美		
3月	当初予算	■R8 一般会計		○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決

議長は採決に加わりません。

【傍聴者人数】 24名（延べ人数）

次回定例会は6月 4日(木)から

6月11日(木)までを予定しています。



「議会だより」へのご意見をお待ちしています。

◀ご意見QRコード

編集後記



日ごとに初夏の気配が濃くなってまいりました。

さて、3月開催のWBCでは、日本代表・侍ジャパンが初めて4強入りを逃しましたが、波佐見高校出身の隅田知一郎投手の素晴らしい活躍に私たちも大きな勇気と感動をいただきました。

世界の舞台上で堂々と腕を振るその姿は、この町の誇りであり未来を担う子どもたちにとっても大きな希望となったはずです。

今号では、そんな熱い躍動感に負けじと、町の未来を形づくる予算や施策について真摯な議論をまとめました。

隅田投手の活躍のように、波佐見町も一歩ずつ力強く前進できるよう議会も一丸となって努めてまいります。

（澤田 昭則）

「議会だより」編集委員

委員長 岡村 真由美
副委員長 澤田 昭則
委員 前田 博司
脇坂 正孝
三石 孝

発行責任者

議長 尾上 和孝